



# 伊深っ子

伊深小 学校だより R6,1,29

FROM-0 歳プラン2推進校

『明るく笑顔あふれる伊深っ子』

～学び合う 思いやる やりぬく～

・ ・ 私たちにできることって ～やっぱり「小さなつみかさね」～ ・ ・

・・・ある日突然・・・

正月真っ只中16時10分、携帯電話から突然の緊急地震速報の音声。その瞬間、「ついにやってくるのか、この地方にも大地震が・・・」

と不安な気持ちになりました。病で床に就いていた私は、布団の中で緊張感が高まりました。そして、「どうか誤報でありますように」

と祈る気持ちで待機しました。

その後のことは、様々な報道で紹介されているように、甚大な被害が浮き彫りになりました。被害から20日以上経過した今現在、安否不明者は20名あまり、避難されている方も一向に数が減りません。私たちが当たり前のように使っている水道も断水が続き、復旧の見込みも2月や3月になるかもしれないようです。被災された方や関係の方々へ心よりお見舞い申し上げます。そして、できる限り早く元の生活に戻ることを願うばかりです。

被災された方を横目に私たちにどんなことができるのか考えてみました。募金やボランティア活動といった活動が脳裏をよぎりますが、小学生の誰もができることではありません。小学生にとってできることは、以下の①から④に示す日常を大切にすることではないかと考えます。

①日々の学習のつみかさね

②仲間との生活のつみかさね

③家族と生活できることに対する感謝の気持ちのつみかさね

④きちんと情報を入手するつみかさね



1月19日(金)に、命を守る訓練を実施しました。この訓練

を、清掃活動中、子どもたちに知らせない方法で行いました。

子どもたちは、緊急地震速報の瞬間、頭を守るためのだんごおしポーズを作り、放送の指示で避難場所へ集まりました。その時、高学年の仲間から「真ん中に集まるよ。」「もう少し離れて並ぶよ。」と低学年や中学年の仲間への呼びかけがなされました。しかし、整列が完了しても、先生の指示を待ち続ける子どもたちで、反省させられました。もしももしも、能登半島地震のような自然災害であった時、大人の指示がなくても子どもたちだけで、人数を確認したり、ケガがあるかどうかを確かめ合ったり、実践力に富んだ力が必要です。

実践力に富んだ力を発揮するためには、先述した①から④に取り組むことしか考えられません。私たちは、日々の「小さなつみかさね」を繰り返し、子どもたちと共に成長したいと考えます。